

目的 衣服設計の基礎として、身体計測値に多变量解析を適用し、体型類型化の基準となる身体特性を抽出したり、あるいはその年令的変化を覚える試みはいくつか報告されている。これらの多くは全身の計測値を一括して扱っているが、衣服設計時の基礎的原型は上半身用、下半身用として別々に設定されている。このことより体型の類型化も、全身にしてより原型設定部位に即して検討するのが、実際の設計上有効と思われる。そこで今回は若年女子について、胸圍線より上部体幹部の身体計測値に因子分析を施し、上半身のかうだつきの類型的把握を試みた。

方法 資料は18~22才の女子短大生161名の身体計測値25項目（周径3項目、丈関係10項目、幅関係11項目、肩傾斜角度）である。まず“計測値25項目”について、次いで示数値18項目（丈関係は背丈に対する割合、幅関係は背肩幅に対する割合など）に肩傾斜角度を加えた19項目について因子分析を行った。バリマックス回転後の因子負荷量を用いて因子の解釈を行った。

結果 計測値25項目に関する結果、各因子にそれぞれ高い負荷量を示した項目は、オ1因子—腕付根と頸椎、頸側、頸窩、肩先の各点を結ぶ体表面上の長さ（斜の幅）、オ2因子—胸部背面の丈、オ3因子—胸部前面の丈であった。同様に示数値19項目についてみると、オ1因子—胸圍に対する背肩幅および背肩幅に対する斜の幅のそれぞれの割合、オ2因子—後丈と前丈の関係を表すもの、オ3因子—背面上部の肩の厚みに関するものが抽出された。